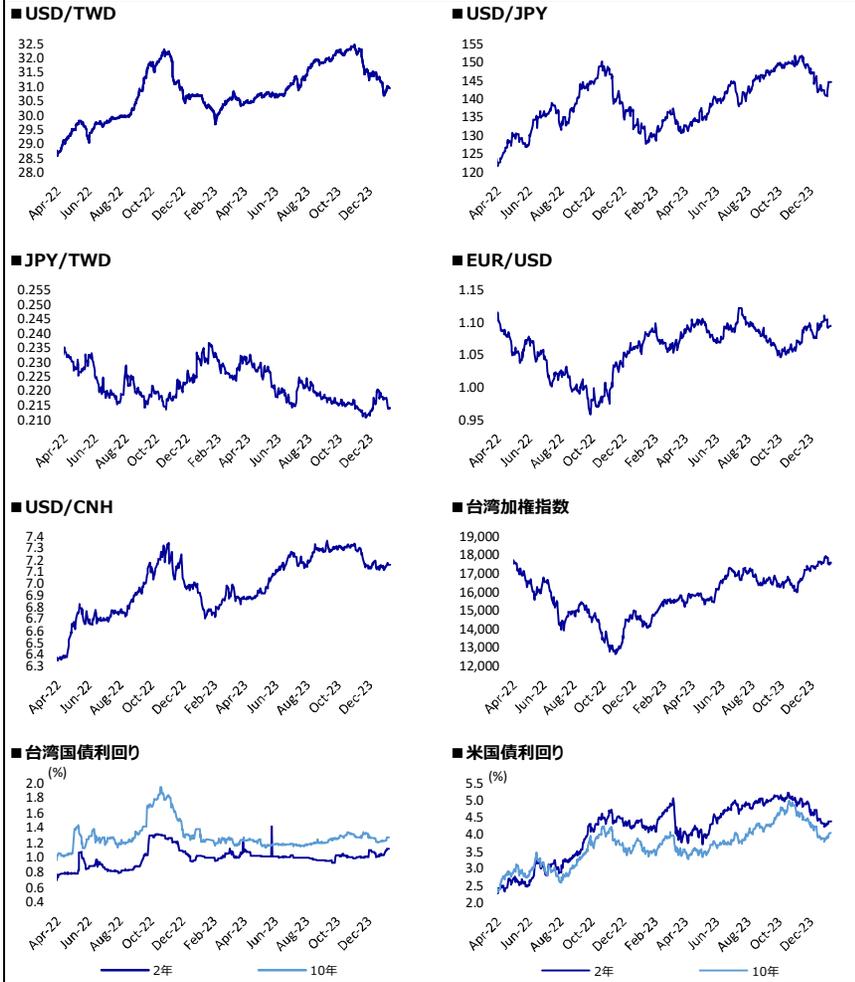


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初1/2は30.740でオープン後、寄り付きはドル売りが優勢な展開となり一時30.656まで下落した。しかしその後、台湾株が下落に転じていたことを背景に、リスクセンチメントが悪化すると、ドル買いが優勢な展開となり30.80台後半まで上昇した。1/3は、米金利が上昇していたことを背景に、台湾株が急速に下落する中、外国人投資家による台湾株売りが強く入っていたことを受けて台湾ドル売りが加速し、31.00台まで上昇した。1/4も台湾株売りが優勢となる中、台湾ドル売りが見られていたが、米12月雇用統計の発表を週末に控え米金利が方向感無く推移する中、ドル買いが一服し31.00台前半で揉み合いの推移となった。1/5は、前日と同じく方向感なしの31.00台前半で推移。最終的には前週比0.94%ドル高台湾ドル安の31.025で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は294.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初1/2は140.90でオープン後、日本における地震の影響で円売りが優勢なスタートとなり、141円台半ばまで上昇する展開に。海外時間に入り米金利が上昇に転じると、ドル買いが加速し142円台前半まで上昇した。1/3は、米地区連銀総裁のパーキンより「利上げの可能性はまだある」との発言が聞かれたことで米金利が上昇する中、ドル買いが優勢な展開となり142円近辺まで上昇した。1/4は独12月PMIが市場予想を上回る結果となったことを受けて海外金利が上昇する中、ドル買いが優勢となり144円台まで上昇した。その後、米12月ADP雇用統計が市場予想を上回る結果となったことを受けて、米金利上昇が加速すると、ドル買いが一段と進み、144円台後半まで上昇した。1/5は米12月非農業部門雇用者数変化と平均時給が予想を上回り、失業率も予想を下回り、米労働市場が依然堅調さを維持しているとの見方から、145円台後半まで急伸。しかし、その後米12月ISM非製造業景況指数が予想を下回り、一転米金利低下に伴い、一時143円台後半まで反落。最終的には前週比2.6%ドル高円安の144.61で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.800-31.100
今週は上値の重い推移を見込む。2024年初以来の台湾ドル安は一段落となり、再びドル安台湾ドル高のトレンドへ戻すか。

■ USD/JPY 予想レンジ：143.00-146.50
今週はドル円は底堅い値動きを予想。先週末の米雇用統計の結果も市場予想対比良好な結果となっており、米金利上昇・ドル買戻しの動きが継続するものと予想する。米12月CPI、PPIの結果に注目が集まる。

今週の予定

1/8 (MON)	日本休場
1/9 (TUE)	台湾12月貿易収支、米11月貿易収支
1/10 (WED)	
1/11 (THU)	米12月CPI
1/12 (FRI)	日本11月経常収支、米12月PPI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。